

1 基本情報

- (1)施設所在地域：中南部
- (2)事業種別：介護老人福祉施設
- (3)床数：30床以上
- (4)居室携帯：多床室
- (5)①感染者数 入居者 7名
- ②感染者数 職員 6名

2 経緯

(1)初回発生確認まで

・ 7月 30日

病院から退院してきた入居者 Aさん(発熱)が食堂で嘔吐。職員が同伴し病院に再度入院。Aさんに対して抗原検査を実施。

(2)初回発生確認以降

・ 8月 1日

嘔吐対応者や病院搬送対応者等職員や入居者を濃厚接触者として選定。感染者発生について県へ報告。ショートステイ休止。

・ 8月 3日

病院受診で抗原検査により 2名陽性。

・ 8月 4日

入居者 1名追加で陽性。

・ 8月 5日

PCR 検査職員 2名と病院受診にて入居者 1名が陽性。

・ 8月 9日

入居者 1名陽性。

・ 8月 14日

入居者 1名陽性。

・ 8月 24日

職員 1名陽性。

・ 8月 28日

入居者 1名・職員 1名陽性。

・ 8月 30日

入居者 1名陽性。

3 施設状況

(1)初回発生確認日について（発生日 7月 30 日 夜間）

①施設の状況

・職員の反応

入所者（初回発生者）に発熱等の症状もなかったので非常に驚いた。

発生確認後、濃厚接触者の特定を速やかに行った。

・物資（個人防護具）

サージカルマスクは常時着用していたが、フェイスシールドは職員一人につき一つしかない状況。ガウン（不織布）、N95 マスクについても、不足している状況で大変不安だった。

・PCR 検査

保健所の指示にて PCR 検査を実施することになったが、8月 3 日実施、その後の結果確定までは、入所者、入所者の家族、職員にとって不安だった。

②対応

・施設内部での対応

ゾーニングを行い、入所者の食事は食事を食堂で提供するのではなく、居室にて提供した。入所者を居室に滞在させることによって、感染のリスクを減らすように努めた。併設事業所のショートステイについては受入を中止した。

入所者について、発熱などの症状があり体調不良者が出ると協力病院へ受診し、検査にて陽性が判明すれば入院できるように調整した。

・法人内での対応

当施設職員（看護師）が感染し、就業不可の場合は、同法人の看護師の応援により対応した。

自宅からの通勤にて家族に感染させるリスクがあり就業に不安を感じる職員については、施設にてホテルを確保し、職員が安心して勤務できるように努めた。

職員への情報提供（施設内の感染状況等）については、施設内回覧だけでなく、メーリングリストを活用し、施設長より適確な情報が各職員へ伝達できるようにした。

・関係機関（行政・自治会・関連事業所）への対応

行政（保健所、市町村、県庁）へは発生日の翌朝連絡を入れた。入所者家族についても発生日の翌日連絡を入れて報告を行った。

③特に対応に苦慮した点

・対応職員の確保

感染した職員、濃厚接触者については保健所からの指示により就業不可となり、職員の確保には大変苦慮した。行政（市町村、県）に応援を求めたが、対応する職員の応援を送ることは困難と回答があった。

施設内の職員（他部署からの応援）や法人内の職員（病院からの応援）により職

員を確保した。

- ・勤務シフト作成

勤務シフト作成にあたってはシフトを調整し、勤務した職員は代休にて調整した。

- ・濃厚接触者特定前後の対応

感染者、濃厚接触者が特定できた以後については、極力、職員の勤務フロアを固定することで、感染のリスクを減らすように努めた。

(2) 2回目以降の確認日

①職員の反応

入所者、職員の陽性が判明する度に職員自身は「自分自身は大丈夫だろうか?」と大変不安に感じた。入所者や入所者の家族に対してもこのような状況で、不安な思いをさせていしまったと思うと心苦しかった。

②個人防護具

防護具については、市町村、県、県社協より支給していただき大変助かった。また、法人内で調整した部分もあり、何とか乗り切ることができた。

3 全体総括

○苦労した点

ア 職員(介護職員)の人材確保

イ 濃厚接触者にあたる職員の宿泊先の確保

ウ 勤務するにあたって自分は感染しているのではないかと不安に思う勤務者の宿泊先の確保。

1 基本情報

- (1)施設所在地域：中南部
- (2)事業種別：特別養護老人ホーム
- (3)床数：60 床以上
- (4)居室形態：個室またはユニット型
- (5)①感染者数：入居者 4 名
②感染者数：職 員 2 名

2 経緯

(1)初回感染確認まで

- ・ 7月 30 日(木)
職員 A (2階の職員)勤務後、夕方から微熱 37.2 ℃、深夜に 38 ℃まで上昇。
- ・ 7月 31 日(金)
職員 A かかりつけ医受診。解熱剤と抗生素の処方される。
- ・ 8月 2 日
職員 B 夜勤勤務
- ・ 8月 3 日(月)
職員 A 平熱に戻り症状も緩和。念のため PCR 検査を切望。職員 B 夜勤勤務
- ・ 8月 5 日
職員 A 病院受診し PCR 検査実施。職員 B 休暇中だったが夕方から微熱(37.2 度)。
- ・ 8月 6 日
職員 B 朝方まで発熱治まらず自宅近くのクリニック受診し PCR 検査実施。
- ・ 8月 7 日(水)
10:10 職員 A から PCR 検査で陽性判定が出たと入電。無症状。

(2)初回感染確認以降

- ・ 8月 7 日(水)
 - 10:34 県高齢者福祉介護課(県所管課)に第一報。以後逐一報告。
 - 10:46 保健所に報告。
 - 10:50 市町村に第一報。以後逐一報告。
 - 13:50 県所管課より入電。病院の専門チームを派遣する制度があるとの情報提供あり。保健所の対応が難しいなか、受け入れる事で決定。
 - 15:50 病院 ICN 訪問。現状確認を行い、濃厚接触者入居者 18 名と特定し、持参してきた検査キットで PCR 検査実施。今度の対策、PPE(防護服)の着脱方法、着脱場所選定、廃棄物の処理方法について実演を交えレクチャーをうける。
 - 19:45 関係者でゾーニング設定による当面の感染者発生階(感染階)勤務体制協議。
 - 20:50 県所管課へ備蓄用品の優先供給をメールにて依頼。
- ・ 8月 6 日(木)
 - 09:50 県より備蓄用品届く

- 11:20 感染階夜勤介護職員 B より入電。PCR 検査をうけたとの連絡。
- 11:40 病院 ICN 訪問。職員 B の件報告。協議の結果、本日午後よりレッドゾーンを拡大し、既存部分と同様の措置をとることを確認。
- 13:25 相談員、介護責任者 5 名を招集。1 名でも陽性者がでたら、感染階職員は全員休務になることを想定して以前から打診している代替職員を選抜。相談員、準夜・深夜フリー・他フロアから 1 名づつを出しが、各階には法人から応援職員を派遣する旨、伝える。土曜日以降のシフト振替作業を指示。
- ・ 8月 7 日(金)
- 13:25 病院 ICN から入電。入居者 4 名の陽性判明。感染した 4 名の濃厚接触者を選定してその人数を報告することと、その者たちを 16:00 から検査をするので全員集めておくようにと指示をうけ、職員 16 名を選定して報告する。
- 13:45 感染確認を受け明日から感染階へ投入する職員 10 名を招集し協力依頼。
- 16:00 病院 ICN 訪問。職員 16 名への PCR 検査(唾液)を実施。
- ・ 8月 8 日(土)
- 組み替えシフトの勤務開始。県より備蓄品届く。ガウン(1000)手袋(1000 双)
- ・ 8月 9 日(日)
- 10:50 職員 B より保健所から陽性判明の連絡。自宅療養だが 38 °C 前後の熱持続。
- 13:00 病院 ICN より 8/7 の職員の検査結果 16 名全員陰性との報。
- 14:40 県所管課の案内で DMAT 事務局医師訪問。
- ・ 8月 10 日(月)
- 14:30 DMAT 事務局職員訪問。
- 15:00 病院 ICN が入居者 12 名・職員 2 名の PCR 検査を実施。
- ・ 8月 11 日(火)
- 11:20 自宅療養の介護職員 B より入電。症状が悪化し保健所に相談し入院になる。
- ・ 8月 12 日(水)
- 14:50 病院 ICN から入電。入居者 12 名、職員 2 名全員が陰性との連絡。
- ・ 8月 13 日(木)
- 13:50 県より備蓄用品届く。ガウン(2000 枚)
- 13:50 DMAT 事務局職員訪問。現状聞き取りを行った。レッドゾーンの状況も観察される。
- ・ 8月 14 日(金)
- 08:40 医師訪問。このままの状態で推移したら、来週 21 日(金)には解除という判断

断になる。ゾーニングも解消し、全館で標準予防策でのケアに移行することになるとの見解。

・ 8月 15 日(土)

16:45 保健所保健師より入電。入居者 2名が本日付けて措置解除との報。

・ 8月 17 日(月)

保健所より残りの入居者 2名が解除との報。

3 施設感染に係る状況（施設感染の経過）

・ 8月 5 日(水)

10:10 2F 介護パート職員 A から PCR 検査で陽性判定が出たと入電。

[経過] 7/30(木)勤務後、夕方から微熱 37.2 °C、深夜に 38 °Cまで上昇したため、翌日かかりつけ医受診。解熱剤と抗生素の処方され、8/3(月)平熱に戻り症状も緩和されたが、念のために PCR 検査を切望し、病院受診。本日 8/7 陽性判明。無症状(本人談)。

10:34 県所管課に第一報。以後逐一報告。

10:46 保健所に報告。

10:50 市町村に第一報。以後逐一報告。

11:00 関係職員集めて、状況説明し今後は保健所の指示に従って対応する旨と冷静な行動をとるように指示。

13:50 県所管課より入電。病院の専門チームを派遣する制度があるとの情報提供あり。保健所の対応が難しいなか、受け入れる事で決定。

15:50 病院 ICN 訪問。現状確認で本人の勤務状況・勤務内容等で発症日を 7/30 とし、その 5日前からの行動確認を行い、濃厚接触者入居者 18 名と特定して、その場で持参してきた検査キットで PCR 検査実施。濃厚接触者は検査結果陰性でも、8/13 まで様態観察継続。職員は休業する旨の方針が示される。職員 A が主に勤務していた場所は全面、ヘルプで対応した部分は 8 名の居室内をレッドゾーンと設定し食事を含め全ての活動を居室内で行うとの指示を受ける。さらに関係職員を集めて初動の対応、今後の対策、さらに関係職員を集めての初動の対応、今度の対策、PPE(防護具)の着脱方法、着脱場所選定、廃棄物の処理方法について実演を交え同日 19 時 15 分までレクチャーをうける。

19:45 関係者でゾーニング設定による当面の 2F 勤務体制を協議。

20:50 県所管課へ備蓄用品の優先供給をメールにて依頼。

・ 8月 6 日(木)

9:50 県より備蓄用品届く

11:20 感染階夜勤介護職員 B より入電。PCR 検査をうけたとの連絡。

[経過] 8/2 ~ 8/4 夜勤勤務。8/5,6 休日の勤務シフトで 8/5 夕方より微熱(37.2

℃) 続きで今朝になっても持続しているため、自宅近くのクリニックを受診。結果判明は 10 日 AM。初発の職員 A とは勤務時間が被らないことから直接の接触はなし。11:40 病院 ICN 訪問。職員 B の件報告。協議の結果、本日午後よりレッドゾーンを拡大し、既存部分と同様の措置をとることを確認。それと、よその医療機関でも検査ということで、追跡が迅速に行われないとの懸念から、職員に発熱、倦怠感等の症状があれば、検査キットを持ち込んで検査を実施するとの申し出があり。・ ・ ・ 感謝。

- 13:25 相談員、介護責任者 5 名を招集。1名でも陽性者がでたら、当該階職員は全員休務になることを想定して以前から打診している代替職員を選抜。相談員、準夜・深夜フリー・上階フロアから 1 名づつを出すが、各階には法人から応援職員を派遣する旨、伝える。あと、土曜日以降のシフト振替作業を指示。

・ 8月 7 日(金)

- 10:50 県より 4 名の陽性判定で出たとの情報提供あり。非公式なので、正式には病院へ確認するようにと。それを受け病院 ICN へ架電するが連絡つかず。
13:25 病院 ICN から入電。入居者 4 名の陽性判明と正式通達。残りの入居者は 14 名と職員 3 名は陰性の判定も職員は 14 日間の自宅待機。感染した 4 名の濃厚接触者を選定してその人数を報告することと、その者たちを 16:00 から検査をするので全員集めておくようにと指示をうけ、職員 16 名を選定して報告する。
13:45 感染確認を受けて明日から感染階への投入職員を 10 名を招集し、協力を依頼する。
16:00 病院 ICN 訪問。職員 16 名への PCR 検査(唾液)を実施。16 名中 10 名は自動的に自宅待機となるが、残りの看護師等 6 名は代替がいないとの判断でレッドゾーンにみでの継続勤務を判断した。
17:45 市町村首長お見舞いで来所。防護用品の供与。

・ 8月 8 日(土) 組み替えたシフトでの勤務スタート

- 13:25 県より備蓄品届く。ガウン(1000) 手袋(1000 双)

・ 8月 9 日(日)

- 10:50 職員 B より保健所から陽性判明の連絡があったとの報告で入電。自宅療養だが 38 ℃前後の熱持続とのこと。
13:00 病院 ICN より 8/7 の職員の検査結果が 16 名全員が陰性であったとの報。
14:40 県の案内で DMAT 事務局医師来所。緊急事態の場合に医療職の派遣に協力する旨の申し出があり。
14:50 病院 ICN より 2 列目の職員陽性の確認で、明日午後に東西の残りの入居者 12 名と職員 2 名の PCR 検査を実施するとの連絡あり。

- ・ 8月 10 日(月)
 - 14:30 DMAT 事務局職員訪問。今後はこれまでサポートした病院に代わって業務を引く継ぐとのこと。県の対策本部に詰めてはいるが、窓口は県所管課へ。
 - 15:00 病院 ICN より入居者 12名・職員 2名の PCR 検査を実施。
- ・ 8月 11 日(火)
 - 11:20 自宅療養の介護職員 B より入電。症状が悪化し保健所に相談し入院になる。
- ・ 8月 12 日(水)
 - 14:50 病院 ICN から入電。入居者 12名、職員 2名の全員陰性との連絡。
- ・ 8月 13 日(木)
 - 13:50 県より備蓄用品届く。ガウン(2000枚)
 - 13:50 DMAT 事務局職員訪問。国立感染症研究所医師等、病院医師帯同。全国での介護福祉施設でのクラスター対策に取り組んでこられた経験から等施設での参考になればと現状聞き取りを行った。レッドゾーンの状況も視察される。
- ・ 8月 14 月(金)
 - 8:40 医師訪問。このままの状態で推移したら、来週 21 日(金)には解除という判断になる。ゾーニングも解消し、全館で標準予防策でのケアに移行することになるとの見解。
- ・ 8月 15 日(土)
 - 16:45 保健所保健師より入電。入居者 2名が本日付けで措置解除との報。残りの 2名は週明け。嘱託医の判断でフル PPE でのケアが来週まで継続というのであれば、万全を期してそれでいいのではとの見解。
- ・ 8月 17 日(月)
 - 7:45 自宅療養していた介護職員 A が職場復帰。
 - 9:15 入院加療中の職員 B より入電。重症化して肺炎を発症しているとのこと。また、同居の母親も感染判明し、病院に入院している。
 - 10:45 保健所保健師より、残り 2名の入居者の措置解除の連絡あり。
 - 13:40 市町村へ解除の報告。市町村長への伝言を依頼。
- ・ 8月 18 日(火)
 - 16:00 保健所職員、DMAT 事務局員等訪問。まず、保健所職員より保健所における初動の対応について謝罪あり。その後、質疑応答。解除と治癒はどう違うのか?、レッドゾーンに投入した職員は家族とも隔離して対応してきたが、解除に当たって、検査をする必要は?等々。
 - DMAT 事務局員等からは感染を拡大しなかった施設の対応を評価。この

経験は大きな財産になるから、今後とも標準予防策を継続してとの助言あり。明日には帰任するとの報告に、仮に二次の感染が発生した場合の支援体制に不安があると吐露すると、保健所職員が今後は保健所がバックアップ体制をとると明言された。

- ・ 8月22日(土)
自宅待機の職員13名が続々復帰。
10:00 2Fのゾーニング解除。標準予防策へ移行。
- ・ 8月23日(日)
レッドゾーンに勤務した職員10名に特別休暇を付与(~30日)
- ・ 8月24日(月)
10:00 感染階以外に勤務する職員へ標準予防策の着脱指導と着脱場所を設営。
- ・ 9月10日(木)
8月給与に合算して特別手当を支給。
- ・ 9月15日(火)
14:45 職員Bが職場復帰

4 検査等の概況

(1) 感染の状況(始発8/5～解除8/22)

日付	区分	人数	感染経路	症状	制限解除等
8月5日	職員	1	市中感染	軽症	8/9解除、職場復帰8/17
8月7日	入居者	4	施設内感染	軽症	8/15、8/17解除
8月9日	職員	1	不明	中等症	8/22解除、9/15職場復帰

(2) 施設内PCR検査 ※感染した職員2名は、かかりつけ医による検査

区分	受検者数	陽性	陰性
入居者	30	4	26
職員	21	0	21
計	51	4	47

うち、自宅待機者13名 繼続勤務8名

5 特に配慮を要した事項

(1)入居者への対応

感染した4名の入居者は当初2、3日は発熱もあったが、比較的軽症で入院措置もなく過ごされた。症状も落ち着いてくると、2名の認知症のある入居者が感染の理解も覚束もなく、自室を出てフロアであらゆるものに接触するなど、対応に苦慮した。

(2)施設の運営(全般)

- 感染階の入居者全員については原則居室内でのケアを実施し入浴も感染一週目は週1回に制限したが、二週目以降は通常ケアに戻した。
- 感染階以外の階は通常運営としたが、慣れない応援職員を配置となつたため、多少の混乱を生じさせた。

(3)ご家族への対応

- 感染した4人目の入居者のご家族へは毎朝夕、看護職員から容態の報告を行った。
- 濃厚接触者としてPCR検査を受けた30名の入居者のご家族へは事前説明と検査結果の報告を電話で行った。
- 入居者の感染が発生した8/7に全てのご家族に文書を郵送して状況報告し、ご理解を求めた。以後、解除になるまで第四報を発出した。

(4)職員への対応

- 以前からリストアップしていた中からレッドゾーンに配置する介護職員を上階から7名、相談員3名(いずれも介護福祉士資格者)の10名を選定。万が一のリスクを避けるため家族との隔離の措置をとった。
- 内訳は施設で宿泊所を用意した者5名、妻子を実家に移した者3名、独居2名。
- 人員が割かれる中タイトな勤務シフトを断行。8月の施設全体の月間超勤時間約500(通常は100時間未満)全員でこの難局を乗り越えていくという気概が感じられた。
- 法人からの介護の応援職員を7名、延べ勤務日数43日を受け入れ。
- 施設職員全員及び応援職員、合わせて82名に一律3万円の特別手当を支給。
- レッドゾーン10名の職員へ解除後5日間の特別休暇を付与。

5 全体総括

まず、感染が拡大しなかった大きな要因は病院ICNの全面支援による初動の対応が迅速かつ適正に行われたことにつきる。感染当初からいち早く駆けつけ、感染対策を細かに指導助言いただいた。ゾーニング設営及び、動線を設定しPPEの着脱や着脱場所を選定、ライン通信を開設し職員への情報共有を図った。とりわけ、施設内での51名のPCR検査を実施するなど、非常にスピーディーに精力的に尽力し、初発から5日間で大枠の対策がとられた。

次に、完全個室の構造が感染拡大を抑制したと思われる。ゾーニングが比較的設定し易く、職員もある程度、固定できているので接触者の追跡が容易であった。しかし、看

護師やユーティリティの介護士、機能訓練員等、ユニットを縦断的に従事する職員もいて、今回、それらの職員も濃厚接触者として検査対象になり、いずれも陰性で事なきことを得たが、今後の課題である。

当施設は日常的に使用するマスクやグローブ等の衛生資材はある程度の備蓄を行っていたが、ガウンは僅かな在庫であった。感染発生で法人からかき集めてもガウンとグローブの消費は想像以上に膨大であったが、県当局の備蓄用品の優先供給を迅速に3回にわたって対応いただき、遅滞なく感染対応にあたることが出来た。そのほか、市町村長も大量の支援物資を携えて激励にきてくださったり、全社協経営者協議会等の関係者やご家族、有志の皆様からも物心両面からの支援、激励をいただき感謝いたします。

最後に、感染発症から怒涛の一ヶ月を過ごしてきましたが、現在までにも3名の職員の同居家族が陽性判定や濃厚接触者とされ自身も検査を受ける事態が発生しています。いずれも陽性判定ではありましたが、14日間の休務を余儀なくされることになり、未だ、戦々恐々の状況にあります。しかし、今回の件で職員が一人ひとりがエッセンシャルワーカーとしての自覚と使命感がますます醸成された気がしており、職員一丸となつてこの難局を乗り切つていけたらと考えています。

(有料)

1 基本情報

- (1)施設所在地域：中南部
- (2)事業種別：有料老人ホーム
- (3)居室形態：個室(ただし界壁ではない)
- (4)①感染者数：入居者 2名
- ②感染者数：職員 1名

2 経緯

(1)初回発生確認まで

- ・ 7月 23 日頃
 職員 A 体調不良(微熱)開始
- ・ 7月 23 日～24日
 職員 A 夜勤勤務(代替職員見つからず微熱でもあったため就労継続)。
- ・ 7月 25 日
 職員 A 病院受診し PCR 検査実施。
- ・ 7月 27 日
 職員 A 陽性確認。

(2)初回発生確認意向

- ・ 7月 27 日
 関連デイサービス就業休止。病院医師訪問し感染対策指導。
- ・ 7月 28 日
 午前 県高齢者福祉介護課(県所管課)へ連絡。個人防護具の提供を受ける。
 午後 病院医師訪問し入居者 10名に PCR 検査実施。
- ・ 7月 29 日
 県所管課へ連絡。個人防護具の追加提供を受ける。
 訪問看護利用について医師と調整。
- ・ 7月 30 日
 28日の PCR 検査結果入居者 1名(関連デイサービスで隣の席の方)陽性。病院入院。
 ほか、偽陰性が疑われる方や発熱者について再度検査実施。
- ・ 8月 1日～5日
 30日発熱者・偽陰性懸念者の PCR 検査結果は陰性。職員等 20 数名を複数日に分け PCR 検査。
- ・ 8月 7日
 発熱した入居者 1名について医師の判断による抗原検査実施。同日陽性判明。入院
- ・ 8月 8日
 入居者 8名に追加 PCR 検査
- ・ 8月 9日
 県所管課へ連絡。個人防護具の追加提供を受ける。
- ・ 8月 10日頃
 8日検査の入居者 8名陰性

- ・8月23日
- 施設全面再稼働開始。

3 感染時の状況(詳細)

(1)施設の状況

令和2年7月27日(月)有料老人ホーム夜勤専属勤務職員の感染が判明しました。

当職員から連絡があったのは午後1時半頃で、利用者は当事業所の関係デイサービスで過ごしていました。すぐに保健所や病院の医師からの指示があり、デイサービスの看護師、相談員を中心に対策を行う。

管理者はホームの職員の勤務配置等の連絡と確認に追われました。

当施設の職員は状況を把握した際に不安に思いながらも協力的な対応ですぐに自ら夜勤を申し出てくれた職員もおりましたが、元々残り数回の勤務で退職予定であった職員1名はすぐに退職する旨を連絡してきました。ほとんどの職員は協力体制をとってくれました。施設にて保管してある感染予防物資はサージカルマスク、消毒用アルコール、手袋の3種類のみで、防護衣、フェイスシールドの保存はしていませんでした。

当該職員がケアをおこなった入居者10名は全員、濃厚接触者として特定しPCR検査を行う事になりました。当日中に検査を行う予定でしたが、間に合わず翌日にずれ込みました。翌、火曜日にPCR検査を行い結果は2日後の30日(木)との事でした。

(2)対応

私たちの施設は職員の感染が確認され早期の段階で、幸いにも複数の病院の先生方が直接介入して頂いたおかげでの的確なサポートとご指導を頂く事ができました。すぐに訪問看護ステーションもご紹介頂き、なにかあった時にはオンコールで対応して頂ける体制を取って下さいました。

入居者は濃厚接触者の段階で無理して個室に留めておかずについつもとかわらないスタンスで、しかし距離は保ちながらケアを行い、症状が出現した際には次の段階の対応をおこなう。という流れでケアを行いました。

PCR検査した翌日7/29(水)微熱の症状が出現した利用者が2名おりました。微熱が続く利用者は対象者としてケアを行うこととし、ケアに当たる職員はサージカルマスクと手袋、ガウン、とフェイスシールド着用し、当該入居者は隔離ができる部屋へ移動していただき排泄もポータブルトイレで行ってもらいました。90才超えの利用者ですが、発熱以外の症状はなく体調不良の訴えもありませんでした。

PCR検査から2日後の30日(木)発熱のあった該当入居者がPCR検査結果、陽性と判断し、当日中に入院する運びになりました。それ以外の利用者は陰性でした。

当該施設の入居者も感染したことにより、その入居者をケアした全ての職員とデイサービス内で同じテーブルに同席している当事業所の別の有料老人ホームの入居者2名を濃厚接触者と特定し、さらに残りの入居者9名も再度、PCR検査を行う事になりました。

しかし、その時期から県内での感染者が数が一気に増加したので職員は年齢と基礎疾患の有無をしづらって検査を行う旨を保健所より伝えられましたが、何とかお願いし医師

のご協力もあり PCR 検査を受けることができました。検査の結果、職員に感染者はいませんでした。

入居者一人目の陽性者が判明してから 1 週間後、一人の入居者から発熱症状があり、先生方のご判断ですぐに抗原検査を行って頂いた結果、陽性反応となり二人目の感染者が確認されました。当時、どこの病院もコロナ感染者を受け入れる病床はほぼ満床であるとの報道等もされていましたが、先生方にご尽力頂いて入院の手配をしていただきました。

当該施設職員が感染した当初から、直ぐに県所管課の職員の方々からサポートとご指導を頂きました。通常とは異なるケアにおいてどの物資が必要で、何が足りないのか？どれだけ用意したらいいのか？など、困惑する私共にすぐに必要な物資を届けて下さつて、状況確認と報告のやりとりを行いながら、常に励ましと気遣いの言葉をかけて頂き、とても心強く感じました。

(3)特に対応に苦慮した点

特に対応に苦慮した点は夜勤の勤務者の確保と勤務調整でした。当該施設は通常、夜勤は一人体制で勤務を行うので、夜勤の勤務職員はある程度の経験値が求められるため、一人が感染し、現場から外れることになり残った職員の負担が増えてしまう事となり、それを補う職員の配置にとても苦労しました。幸い他の職員に感染者はおらず、自法人内の職員で勤務を行うことができましたが、その苦労は観察期間が終了するまで続きました。どの職員も不安な気持ちを抱えながらも勤務の変更等に協力的で、入居者を守るために懸命に行動して下さいました。

今回は緊急事態とはいえ、職員に過剰な負担をお願いすることになったので勤務した職員にたいしては特別手当を支給しました。

職員も毎日暑い中でも防護衣、サージカルマスク、フェイスシールドを直用してのケアは体力的にも精神的にもかなりの負担を強いられたと話していました。

4 今回の体験を通した所感

過去にインフルエンザの流行期であっても、数年に一人罹患する程度で、施設内においてインフルエンザ感染した経験はなく、施設としての感染症対策は間違っていないとの思いがありました。しかし、今回に限っては通常の感染症対策よりももう一段上げた対策をとらなければ感染は防げないと痛切に実感いたしました。特に当該施設の居室は個室であるものの、完全に壁を隔てての居室スペースでは無いので、感染が広がってしまう懸念がありましたが、10 名の入居者から 2 名の感染と最小限に抑えることが出来たのは何よりも職員の懸命な努力と最初からずっとサポートして頂いた先生方、訪問看護で入って下さった皆様のお力、そして、行動も制限され不自由な思いをしながらも職員の言葉を守り協力してくれた入居者の皆さんのお陰だと思います。

最初に感染した職員も入院中に症状が悪化する事もあった様子でしたが、投薬後、体調も回復し、退院後は元気に職場復帰し勤務に従事しています。

感染して入院措置となった入居者 2 名とも高齢ではあったが、重症化する事なく無事に元気な姿で退院して通常の生活に戻りました。しばらくは ADL の低下等がみられま

したが、徐々に以前と変わらない状態まで回復していきました。
感染症対策の観点からの改善点として、居室スペースは完全個室での作りが良いのであろうと考えられるが、現時点での改築は難しく、将来的な課題として残っています。
現在でも職員に対しては常日ごろから自身の感染症対策の徹底をお願いしているところですが、いつまで続くのか分からぬ状況で今現在でも精神的には常に緊張している状態です。

1 基本情報

- (1)施設所在地：中南部
- (2)床数・利用者数：発生時利用者 20 人
- (3)①感染者数：利用者 4 人
②感染者数：職員 1 人

2 経緯

- ・ 8月 12 日 【Aさん】 抗原検査で陽性判明。県・市町村へ報告。※以降隨時報告。
- ・ 8月 14 日 【Cさん】 抗原検査で陽性と判明（2人目）。
- ・ 8月 15 日 一斉検査実施・事業所部分閉鎖開始
- ・ 8月 17 日 【Dさん】 一斉PCR検査で陽性判明（3人目）。
- ・ 同日 【Eさん】（15日一斉検査結果陰性）熱症状あるとの連絡あり。家族から救急要請をしてもらい病院へ搬送となる。抗原検査で陽性と判明（4人目）。
- ・ 8月 21 日 【Gさん】 20日実施したPCR検査で陽性と判明。
- ・ 8月 26 日 【Cさん】 午前 7 時に永眠。
- ・ 8月 29 日 【Aさん】 病院を退院して部分利用再開となる。
- ・ 8月 31 日 施設全面再稼働。
- ・ 同日 【Dさん】 病院を退院して利用再開となる。
- ・ 9月 10 日 【Eさん】 病院を退院して利用再開となる。
- ・ 9月 15 日 【Gさん】 復職するが頭痛と吐き気の後遺症が現在（10月中旬）続いている。

3 施設の状況（全体の流れ）

(1)初回発生確認まで

- ・ 8月 11 日 火曜日
夕食時 【Aさん】 何度かくしゃみあり。
22:00 咳・発熱症状発症で経過観察を行う、解熱せず嘔吐と酸素飽和度低下あり。
- ・ 8月 12 日 水曜日
01:00 病院へ救急搬送。（→同日 10:00 新型コロナウィルス抗原検査で陽性）

(2)発生の確認後

- ・ 8月 12 日 水曜日
午前 利用が重複するデイサービスに連絡を入れ情報を共有する。
※県からの指示でソーシャルディスタンス、食事時の飛沫防止に務める。
制作中のテーブル用パーテーションを仕上げ昼食時から全テーブルに設置。
- 午後 保健所から連絡があり、状況について聴取と必要書類の提出を求められる。
・ 医師を含む 3 人受入。状況について聴取 建物内の視察を行う。利用者名簿利用状況がわかる書類等を提出後、書類を照らし合わせながら発症日の 8 月 11 日から 9 日の朝までさかのぼり食事で同席した利用者を提出するよう指示ある。

- ・夕食時から食器類を使い捨て容器へ変更。
- ・県・市町村へ経過報告を行う。

【医師の検証結果】

濃厚接触該当者、利用者1名【Bさん】、職員12人がPCR検査対象となる。【Bさん】の検体採取を行う。【Bさん】は個室対応で防護策を行いケアすること。(マスク・手袋・ガウン着用)施設内の換気と消毒、手すりやドアの取っ手、電器のスイッチ、電子レンジのスイッチなど手で触れる範囲の消毒のみで良い。出来れば1日3回。

・ 8月 13 日木曜日

- 午 前 利用者の健康状態を電話で確認。
- ・PCR 検査を行う職員名簿を病院に FAX。
 - ・市町村へ経過報告を行う。
- 午 後 職員 6 人が病院で PCR 検査を受ける。

・ 8月 14 日金曜日

- 午 前 県の職員 4 人受け入れ。食事介助にはフェイスシールドを装着するのが望ましいとのこと。法人に依頼して職員 11 人分のフェイスシールドが関係施設より届く。
- 午 後 職員 6 人が病院で PCR 検査を受ける。
- 15:00 【Cさん】体調が悪そうにしている。単発で咳あり。バイタルサイン測定し 38.0 度台の発熱。個室へ移動、病院と連絡を取り指示を仰ぐ。
- 17:00 救急要請でコロナ疑いと話をして病院へ搬送→抗原検査で陽性と判明(2人目)。
- 19:00 病院から連絡あり、感染拡大が懸念されるので利用者全員を対象に PCR 検査を実施すること。
- ・施設に戻り、明日の検査について利用者家族に連絡を行う。
- 【Fさん】14日から 37.0 度台の微熱で上がり、下がりがある。
- 【Gさん】8月 14 日から倦怠感あり。

・ 8月 15 日土曜日

- 午 前 濃厚接触該当者、利用者 1 名。【Bさん】検査結果陰性
利用者一斉 PCR 検査を実施するため病院の医師が訪問。施設の玄関先でドライブスルー方式で検査を行う、同行する家族には換気と双方のマスク直用、座席を前後対角線上で乗車するよう事前に周知する。
利用者 19 人中 18 人に対し実施、1 人は未実施。
【Gさん】昼間に 37.8 度の発熱。
- 午 後 8月 13 日に PCR 検査をうけた職員 6 人の陰性判明。
【Fさん】14日から発熱していたが 15 日夕方以降平熱。
・県へ経過報告を行う。

・ 8月 16 日日曜日

午 前 利用者と職員に連絡を入れ健康状態を確認。

午 後 PCR 検査を受けた職員 6 人は陰性。

・ 利用者一斉 PCR を受けなかった利用者 1 人の検査日を調整

・ 県へ経過報告を行う。

・ 8月 17 日月曜日

午 前 15 日の一斉 PCR 検査結果陽性者が判明。【D さん】陽性判明(3人目)。15 日の一斉 PCR 検査後家庭へ戻っていたため病院と家族が直接やり取りし、心疾患と呼吸器疾患があり、様態の急変リスクが高いことから病院への入院が決まる。

【E さん】(15 日一斉検査結果陰性)家族から発熱症状あるとの連絡あり。病院へ報告。指示を仰ぎ連絡を待つ。

【G さん】17 日の朝から平熱。

午 後 ご家族へ発症経緯と施設閉鎖のお知らせ、お詫びの文書を作成し発送する。

【E さん】家族から救急要請をしてもらい病院へ搬送となる。抗原検査で陽性判明しそのまま入院となる(4人目)。保健所へ感染経路調査のための書類を再提出する。

県・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月 18 日火曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。体調不良者なし。

午 後 国立感染症研究所研究員 2 人が施設訪問。1 人目の【A さん】を中心に感染源と感染経路を調査。特に本施設以外の他事業所のデイ利用はないかを確認。感染対策面では感染拡大をよく押さえ込んでいると評価。

【G さん】嗅覚障害あり保健所と調整し後日 PCR 再検査を行う事になる。

・ 県・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月 19 日水曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。職員 1 人体調不良が続いているため保健所と連絡をとり 8 月 20 日に PCR 再検査予定。

午 後 利用者が重複している別事業所デイサービスと情報交換を行う。

【D さん(3人目)】について、濃厚接触者の家族 PCR 検査を受ける。

・ 県・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月 20 日木曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確報告。職員 1 人体調不良が続き PCR 再検査。

午 後 【E さん】濃厚接触者(家族)が PCR 検査を受ける

【Gさん】嗅覚障害あったため保健所と調整しPCR再検査を行う。

- ・県・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月21日金曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。職員1人発熱で自宅待機中。入院者については【Dさん(3人目)】・【Eさん(4人目)】家族がPCR検査受診。【Dさん(3人目)】家族熱発。

午 後 職員1人PCR検査結果陽性の診断と連絡あり。

保健所から連絡が入り、【Cさん(2人目)】について聞き取り調査があり、利用状況などの書類をFAXする。

・病院より連絡あり、【Cさん】新型コロナウィルスに対する治療は終了。尿路感染症の治療を行っている。来週中の退院の予定。施設受け入れの可否についても聞かれる。

【Gさん】20日実施したPCR検査結果陽性で病院に入院。

- ・県・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月22日土曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。パーテンション改良。

午 後 隔離部屋設置準備。パーテーション改良。

・ 8月23日日曜日

終 日 特に動きなし。

・ 8月24日月曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。県へ経過報告を行う。

午 後 利用が重複するデイサービスの情報を収集する。現在も閉鎖中。

- ・市町村へ経過報告を行う。

・ 8月25日火曜日

午 前 利用者と職員の健康状態を確認。入院者については次の状況。

【Cさん】コロナ治療は終了。尿路感染症の治療を行っていたが敗血症になり酸素を投与。22日危篤状態になったが徐々に回復しているとのこと。

【Dさん】今日の退院の可能性もある。濃厚接触者の娘さんは解熱している。

【Eさん】コロナの治療終了。退院の話があったが、嘔吐し原因を精査中。

【Gさん】病院を退院。

午 後 県へ経過報告を行う。

・ 8月26日水曜日

終 日 利用者・職員の健康状態を確認。入院者については次の状況。

【Aさん】現在も入院中。一度リモートで面会して以降あえていない。

【Cさん】午前7時に永眠。

【Eさん】退院調整のため情報提供。

【Dさん】退院調整のため情報提供。

- ・利用が重複するデイサービスから連絡あり情報を交換。
- ・県・市町村へ経過報告を行う。

・8月27日木曜日

午 前 消毒済みのシーツなどリネンの回収。

- ・市町村へ経過報告を行う。

・8月28日金曜日

終 日 入院先病院から利用者の退院調整で連絡が入る。明日午後退院の運びとなる。

・8月29日土曜日

午 前 特に動きなし

午 後 【Aさん】病院を退院して利用再開となる。

・8月30日日曜日

終 日 特に動きなし

・8月31日月曜日

午 前 施設全面再稼働。【Dさん】病院を退院して利用再開となる。

午 後 関係機関からの連絡はなく、特に動きなし。

・9月1日火曜日

午 前 特に動きなし。

午 後 特に動きなし。

特に動きがないため、中略

}

・9月10日木曜日

午 後 【Eさん】病院を退院して利用再開となる。

・9月15日火曜日

【Gさん】復職するが、頭痛と吐き気の後遺症が続いている。

4 全体の体験として(新型コロナウィルス感染者の発生を経験して)

○施設の状況及び対応

8月12日の感染者が判明し、利用者1人、職員(守衛1人を含む)12人が濃厚接触者となつたが、即事業所を閉鎖することができなかつた。利用者家族の問題には、老々介

護、認知症高齢者で独居生活、複数の要介護者を抱える、日中の介護者不在などがあり強硬に事業所閉鎖に踏み切れなかった。結果、14日に2人目感染者がでた翌日の15日から事業所閉鎖を行ったが、それでも自宅に帰れない、入浴サービスや配食と服薬支援が必要な利用者も居り完全閉鎖ではなかった。サービスを継続して提供するため症状のある職員以外は勤務を続け、直接ケア班と施設環境整備班に分かれて勤務に就いた。

職員は、PCR検査結果が陰性であっても濃厚接触者であるのに、自宅待機でない事に戸惑いもあった。

物資に関しては、サービスを提供する利用者が限られたため消費が少なく十分な量は確保できていた。

事業所閉鎖に伴い利用者は自宅のみで生活を送ることになったが、自宅において更に2人に感染が認められ、同居家族2世帯の計3人が濃厚接触者に該当しPCR検査を受けた。結果陰性ではあったが、感染が拡大しかねない状況にもなっていた。

○修正点

これまでの標準予防策に加えて、コロナ後の変化は、パーテーションの常時設置と利用者の席の固定、認知症デイサービスを併用していた利用者さんは、家族と相談の結果、当事業所のサービスのみを続ける事にした。

○現在

感染した利用者4人中1人が永眠された。残りの3人のうち2人は罹患前には程遠く、後遺症なのか、頭を抱えて口数も少なく、食欲も減退し吐き気もある。感染した職員も復職はしたものの、頭痛と吐き気が度々あって「仕事を続けられるか考えてしまう」という状況です。

感染した職員に関しては労働基準監督署へ報告も行っています。

1 基本情報

- (1)施設所在地域：中南部
- (2)事業種別：有料老人ホーム
- (3)定員：10名以下
- (4)居室形態：一部相部屋
- (5)①感染者数(利用者) 1人
②感染者数(職員数) 0

2 経緯

- 8月18日 入居者Aさん・入居者Bさん(同室(相部屋)入居者)熱発(体温38度程度)。
- 8月21日 Aさん・Bさん発熱継続のため医療機関受診。
 - ・保健所と相談しAさん・Bさん・病院同伴した職員CさんPCR検査実施。
- 8月23日 AさんPCR検査結果新型コロナウイルス陽性が確認される。Bさん・Cさん陰性ではあったものの偽陰性の可能性あり追加PCR検査実施。
 - ・入居者全員についてデイサービスの利用を停止。個室管理開始。
 - ・陽性者情報が保健所及び県コロナ対策本部(県本部)へ伝わる。
 - ・保健所が訪問し感染管理指導実施。個人防護具不足分提供。
 - ・県高齢者福祉介護課(県所管課)が個人防護具を追加で提供。
- 8月24日 県本部が訪問し感染管理状況を確認。
- 8月25日 8月23日検査したBさん・Cさんについて陰性確認。
 - ・県本部が訪問し感染管理状況を確認。
 - ・熱発した入居者含め入居者3名・職員2名PCR検査追加実施。
- 8月26日 県所管課が個人防護具を追加で提供。
- 8月26日～9月5日 県本部が訪問し感染管理状況を確認。
- 8月27日 8月25日検査分全員陰性を確認。
- 8月30日 県所管課が個人防護具を追加で提供。
- 8月31日 県本部が訪問し感染管理状況を確認。ゾーニング区域等見直し。
- 9月2日 県所管課が個人防護具を追加で提供。
- 9月6日 健康観察期間終了。

3 施設の状況(全体の流れ)

(1)初回発生まで

同じ部屋に入居する利用者2人に発熱を確認。
2日熱が続いたため保健所に連絡をいれ、PCR検査となる。
※両者様には、部屋に1台づつテレビを設置。
検査結果前から、職員は施設の生活をしていただきました。
検査の結果、陽性の方は1人だったため保健所の指導で施設全体の消毒を実施。

(2)発生の確認後

確認後は現在勤務中の介護職員を家に帰さずに隔離。

利用者様全員、部屋での隔離を実施。

発熱のある利用者様は担当介護職員を1人つけ24時間対応としました。

1日、3回～4回の床、手すりなどの消毒の実施(終息するまで)

3 関係者への対応

(1)利用者への対応

利用者様、介護職員全員が濃厚接触者となり、職員は使用方法を習ったガウン・手袋、マスク、フェイスシールドを着用の上対応。ガウン・手袋・マスクは、利用者1人の介助毎に廃棄し、フェイスシールドは消毒して使用しました。

陽性利用者は入院となりましたが、同部屋の利用者様は熱発していたものの検査の結果陽性ではなかったので、部屋を一番離れた場所に移動し、その利用者様を対応するには担当介護員1人として、他の利用者様とは接触をさせない。また、利用者様の介助した場合は、ガウン・手袋・マスク・フェイスシールドは廃棄しました。

(2)職員への対応

職員への対応として、寝床の確保、三食の食事、家族への連絡をしました。

発熱時いなかつた介護職員は自宅待機、外出を極力しないように要望しました。

4 全体の体験として

利用者様の発熱が、コロナウィルスなのか風邪なのかの判断に迷いましたが、職員の協力もあり全員の隔離を迅速にできたことはよかったです。

ガウン・マスク・手袋の在庫があまりなく対応に困りましたが、保健所・市町村・県の方々が迅速に対応し、物資を届けてくれたことには感謝しかありません。

最初のころはどこから？なぜ？と感染経路のこぼかり考えていましたが、陽性の利用者がでた以上それを今考えても仕方のない事だと思い、感染拡大をしないための最善の努力をすることに切り替えました。部屋の消毒をアルコールとティッシュを使い行い、床の掃除を徹底し、ガウン・フェイスシールド・マスクは一回きりで処分という形をとりました。もったいないと思いましたが素人が消毒し再利用しようと反対に細菌に触れてしまい感染拡大すると指導をうけたので処分したほうがいいとのことでした。

5 管理者として

職員の確保にはとても考えさせられました。濃厚接触者になった職員を家族のいる家に帰すべきなのか、施設で生活してもらうか。

保健所からは市町村からの派遣で介護職員を補填してくれるという話がありましたが職員はどうするのか？

派遣の方の指示などはどうするのか？電話対応はどうするのか？利用者様のケア大丈夫なのか？いろいろ短期間では考えることができませんでした。今回は職員の協力もありみんなで乗り切ることができました。

コロナウィルスを完全に防ぐことは困難だと思いますが、感染拡大を防ぐことは可能だと今回の経験で実感しました。それには周囲からの援助、指導はもちろんですが一番は職員全員の一致団結かと思います。

1 基本情報

- (1)施設所在地：中南部地域
- (2)居室形態：個室
- (3)感染者数：1人

2 経緯

- ・8月28日
関係者1名発熱したため施設利用制限。
- ・8月31日
上記関係者発熱継続のため病院受診。PCR検査実施し当日陽性判明。
- ・9月1日
入居者25名・職員9名PCR検査実施。
県へ状況を報告。
- ・9月2日
9月1日の検査結果全員陰性
職員20名PCR検査実施。
- ・9月3日
9月2日検査した職員全員陰性確認。
- ・9月5日
入居者1名発熱したためPCR検査実施。同日陰性確認。
- ・9月8日
県から個人防護具の提供を受ける。
- ・9月11日
入居者1名血痰が出たため抗原検査を実施したところ陰性。陽性関係者について体調が回復してきたためPCR検査実施し陰性確認。
- ・9月12日
9月11日検査した職員陰性確認。県本部と保健所へ報告となる。

3 施設感染に係る状況

(1)初回発生確認日について

①施設の状況

8月31日(月)発熱により病院外来を受診。同日夕方PCR検査陽性と本人より報告を受ける。施設内で職員の動搖が見られ、接触者からの問い合わせもあり、勤務調整の検討をはじめる。

②対応

関係医療機関の感染対策室と連携し、発熱から2日前の当該職員の勤務状況把握、濃厚接触者の特定、接触者リストを作成し方向する。勤務調整実施。

施設全体を環境クロスにて清拭施行。特に以下を念入りに清掃。

ア)更衣室や共有スペース、イ)トイレ、ウ)廊下の手すり、エ)エレベーター内・ボタン

③特に対応に配慮した事

隔離フロアと入居者の限定と入居者及び職員の限定の限定ができ、入居者の発熱の有無、職員の発熱の有無をチェックし、個室管理対応へと切り替え、更なる感染拡大が起きないよう対策を取った。

(2) 2日目以降の確認日

①施設の状況

保健所へ発生階入居者 16 人と職員 11 人の接触者リストを FAX する。

関係病院の感染対策会議にて PCR 検査施行が決定し、検査を実施。

接触者リストより、発生階の全入居者 30 名程度、発生階勤務職員（左記と同数程度）の PCR 検査を実施し、全員陰性を確認。感染発生から 2 日間で、接触者ほぼ全員の PCR 検査陰性が確認できたことで職員の不安軽減に繋がった。

②対応

引き続き、入居者全員の朝・夕の体温測定及び全職員の朝・夕の体温測定と健康観察実施を 2 週間行った。

施設全体がで個室ケア体制とし、認知症や個室対応困難な入居者様を選択し、食事摂取方法や日常の過ごし方をできるだけ変更させないように、3 密を避ける体制、食事介助時間帯の勤務調整を図った。

③特に対応に顧慮した事

職員家族に関する保育園や学校からの問い合わせに対し、職員から対応確認があり、感染対策会議を隨時開催、全職員で情報共有をし、不安の軽減に努めた。

フロアでの限定隔離ができたことで、介護職員の固定と看護職がほぼ固定できた。

マスクに関しては、職員に 1 日 1 枚を提供できていたが、個人防護具に関しては長袖ガウンが 10 枚程度しかなく、微熱ありの入居者限定でケア等に使用し、通常はエプロンと手袋着用、アルコールによる手指消毒の徹底を行った。

(3) 終息期

①施設の状況

施設内換気の徹底、環境クロスによる手すりやトイレ等の清拭、3 密を避け、ソーシャルディスタンスの徹底ができるようになった。

②対応

施設内入居者で発熱が発生した場合、速やかに病院の発熱外来を受診。

その後、入居者 2 人の PCR 検査陰性を確認した。

4 改善・所感

入居者へマスクの着用を促しても、すぐに外してしまうため全員がマスク着用とはいかなかった。布マスク管理も難しく、ペーパー等での手作りマスクを使用。今後、入居者のマスク着用については検討課題。

また、衛生材料の物品が不足状態で、特に防護服は介護施設での確保が困難なため、県より 5 箱袖付エプロンを補充していただいた。今後、衛生材料確保も重要課題。最後に施設で一番難しいのが、濃厚接触者や自宅待機者が出了場合の勤務配置で、少ない職

種での感染等が起こった場合の人材確保と、特に夜勤者の配置が困難となるため、交代での勤務態勢づくりが課題となる。

1 基本情報

- (1)施設所在地域：中南部
- (2)事業種別：通所介護
- (3)利用上限：40名程度
- (4)①感染者数（利用者25名）
- (5)②感染者数（職員9名）

2 経緯

・ 8月10日

利用者2名職員1名感染確認。

同日営業停止（この時点では一旦数日の停止）を判断。

営業停止初日で3名の利用者、職員の感染が確認されたことから、クラスターの発生を疑うとともに、自宅で待機している利用者も感染が拡大することを予想し、代表が消防本部へ連絡し、事業所の利用者からの電話があった場合はコロナウイルス感染症の可能性が高いと報告する。（コロナウイルス感染症の陽性者であれば救急隊が濃厚接触者として救急機関が停止する可能性があると判断したため）

同日から作成したリストにより追って職員約3名利用者約2名が濃厚接触者に選定。

利用者・ご家族へ説明の電話開始。

・ 8月11日

利用者3名、職員1名陽性結果判明。

医師訪問。利用者20数名に加え職員24名について追加検査が必要と判断。

市町村へ連絡し総合支援事業の休止届けを提出する。併せて県高齢者福祉介護課（県所管課）へ連絡する。

・ 8月12日

10日、個別にPCR検査を受けた利用者について陽性判明。

前日の追加検査決定者した残りの方に対してPCR検査実施。

職員自身やご家族の体調をメール等で確認する※電話回線がパンク状態となっていた

・ 8月13日

利用者8名・職員1名陽性確認。関係者への連絡を継続する。

8月30日までの事業所休止を判断し関係者へFAXする。

利用者のケアマネージャーへ他サービスの導入などを依頼する。

・ 8月14日

利用者2名・職員6名の陽性確認。関係者への連絡を継続する。

・ 8月16日

利用者7名の陽性確認。関係者への連絡を継続する。

・ 8月17日

利用者2名の陽性確認。

事業所・送迎車両の除菌を業者へ依頼。施工時ウイルスの数を図ったところ送迎車の数値が一番高い状態。

関係者への連絡を継続する。

- ・ 8月22日
職員の多大なストレスを緩和するため公認心理士協会による「こころのケア」へカウンセリングを依頼・実施。
- ・ 9月1日
施設全面再稼働。

3 施設の状況

(1) 時期（時系列）

① 初回発生確認日について（初動措置）

○ 施設の状況

- ・ 8月上旬に第1発症者Aさん（体調不良により）が入院先よりPCR検査の結果、コロナウイルス感染症の陽性反応が確認されたと同法人のケアマネジャーへ報告があった。※第1発症者が発症源というわけではない。
- ・ ケアマネージャーから代表取締役へ報告があり、サービス提供前であったので当施設職員へ当日のサービス停止命令を下す。
- ・ 通所介護事業所なので自宅等へ送迎サービス中の職員も数名いたため、電話連絡し、サービス停止であるため、送迎車は一旦デイサービスへ帰所するよう指示する。デイサービスで待機している職員で当日の利用者へ営業休止の連絡を行う。
- ・ 代表が当日週休日であった管理者を緊急出勤させ、ご家族との連絡担当、ケアマネージャー等への連絡担当を配置、デイサービスにすでに到着している利用者への対応のため数名配置、施設の営業休止の連絡を文書にて作成し、FAXで報告する。
- ・ 利用者が全員帰宅した後に、事業所の消毒作業を実施する。併せて、当日利用でない利用者、ご家族へ1週間の営業休止の連絡を行う。職員の体調を確認し、その時には体調不良者はいない状況であった。職員の感染の可能性もあるので、管理者、相談員以外の職員は自宅待機を命ずる。（管理者、相談員は継続して利用者、ご家族、ケアマネジャーとのやりとりを行う。）
- ・ 同日午前中に、従業員のPCR検査の陽性結果の報告を受ける。
- ・ 保健所へ電話連絡し、営業休止や利用者の陽性結果等を報告する。事業所の休止期間等は保健所が判断出来ないと言うことであった。とりあえず、陽性反応が確認された利用者、職員の濃厚接触者リストを作成するようにとメールでのやりとりを行う。また、市町村へ報告を行ったが、祝日であったため、担当が不在の状況であった。
- ・ 陽性反応の職員から連絡があり、保健所とのやりとりで濃厚接触者のリストを数名あげられるが、まだ該当が確定していない状況にあった。
- ・ 濃厚接触者の定義が感染者と1メートルの距離で15分間をマスク無しでいることが条件であったため、職員がマスクをしないでケアをすることはまずないことで、感染した利用者との濃厚接触者をリストアップすることが困難であった。
- ・ 同日の夕方頃、体調不良で入院していたCさんのご家族から連絡があり、PCR検

査を本日受けて直ぐに陽性反応の結果が確認されたと報告を受ける。(事業所より陽性反応者が確認したところをCさんご家族へ報告したところ、病院側へ連絡しPCR検査を受けることとなる)

- ・営業停止した初日で3名の利用者、職員が確認されたことから、クラスターの事業所を疑うとともに、自宅で待機している利用者も感染が拡大することを予想し、代表が消防本部へ連絡する。当事業所の利用者からの電話があった場合はコロナウイルス感染症の可能性が高いと報告する。(救急要請時に事業所名の確認を依頼する。搬送時にコロナウイルス感染症の陽性者であれば救急隊が濃厚接触者として救急機関が停止する可能性があるかと判断したため)
- ・翌日、朝方、消防本部の当直責任者より電話があり、当施設の利用者から救急搬送の要請があるとの報告を受ける。デイサービスでの利用状況等を提供し、コロナウイルス感染症の可能性があることを話す。感染予防を徹底した搬送を行うとのこと。その利用者は後に病院搬送後PCR検査を実施し、同日に陽性反応の結果となる。

(複数名の発生確認前の感染症対策)

●事業所としての感染予防対策

- ・職員は常にマスクを着用し業務を行う。(入浴職員にあっても完全マスク着用)
- ・機能訓練指導員は個別機能訓練実施後、消毒、手洗いの徹底。事業所到着時、検温、体調確認を行う。県外等からの渡航歴のある方との接触があった職員、利用者は5日の出勤停止命令(休業手当等)利用自粛をお願いする。
- ・送迎後の換気を徹底。事業所の窓を開けるなどして換気をよくする。利用終了後の利用者がアルコール消毒(テーブル、トイレ、椅子、平行棒、リハビリ器具)

②2回目以降の確認日

○8月11日(主にPCR検査)

- ・8月11日に午前中に利用者、職員の濃厚接触者リストを作成、保健所へメールで報告する。その時点ではまだ利用者、職員の濃厚接触者は確定されていない。
- ・市町村へ今の状況を報告し、総合支援事業(通所型サービス)の休止届を提出する。※協力依頼があったが、アルコール消毒の配布を要求する
- ・同日、正午に病院の医師が当事業所へ来所する。状況を説明し、集団発生が生じたと思われることから、行政検査に移行する流れとなる。
- ・利用者リストから、感染者と同テーブルであった方、送迎車が一緒だった方、重度化する可能性のある方などをピックアップし、同日の午後(15時)に病院へPCR検査を受ける約20名。同日に連絡がつかない方や、病院へ移動手段がない方は後日、PCR検査を受けることとなる。職員にあっては、デイサービス関連する職員は全員PCR対象となり、翌日、病院で検査を受ける。

●課題

- ・PCR検査をうけるよう、キーパーソンの方へ連絡するがなかなか連絡がつかず、再度連絡をしてもつながらない方がいたことや、ご家族の関係性が悪く、

PCR検査を促すもご家族での対応が出来ない方もいた。代表がPCR検査場へ同行することも何名かいた。

- ・キーパーソン以外の緊急連絡先を第3、第4のご家族等を確保することが必要である。
- ・独居でご家族の介入のない方もいるので、PCR検査へ事業所が対応することとなった。

○ 8月12日

- ・8月10日に個別にPCR検査を受けた方のご家族より、陽性反応の結果が出て、病院へ入院との報告をうける。(第1発症者との濃厚接触者リストにあがっていない)この方の陽性反応の結果を受けて、感染が事業所全体に広がっていることが予想される。
- ・継続して、利用者、ご家族へ体調の確認やPCR検査の調整、各関係機関への連絡を行う。
- ・職員の体調管理や職員のご家族の体調などはメール等にてやりとりを行う。

※電話回線がパンク状態であったので、送迎車両の携帯電話などを活用する。職員間のやりとりは緊急時以外メール等で行うこととする。

○ 8月13日～

- ・8月13日以降は、次々と利用者、職員の感染が確認されたので、営業開始を8月30日迄、休止と判断し関係機関へFAX等で連絡する。また、事業所の感染された方の人数などもFAXで報告する。※電話だと時間がかかり、その他の業務が進まない為
- ・ケアマネジャーへ感染の有無の報告や併用利用している事業所とのサービスの調整、他のサービスの導入などを依頼する。
- ・ご家族へデイサービスが8月30日迄休業することを報告する。その間に利用者、ご家族へ負担がかかることが顕著である。
- ・罹患された方の本人、ご家族へ状況を確認することや、職員の体調確認(罹患された方)と濃厚接触者として自宅待機の方の発症の有無などを確認する。(陰性職員は体調不良などの訴えは8月中なかった。)
- ・休業中の職員に対しては、休業補償(10割支給) 罹患された方に関してはお見舞い金を支給、労災申立書を申請中である。また、コロナウイルス感染症に係る介護サービス事業所等継続支援事業補助金の交付を申請中(手当として全額を職員へ支給する)

③終息期

- ・8月17日に除菌施工業者に来所。事業所、送迎車両の除菌施工を終日行う(除菌作業3日前までは除菌の為、事業所へ入ることができない)。施工時ウイルスの数を図ったところ、送迎車のウイルスの菌の数値が一番高い状態であった。

- ・継続して、利用者への電話連絡を重ね、罹患した職員のなかには、那覇の療養型ホテルにて療養している方もいるので、その状況も確認する。比較的罹患した方は、軽症であったため、入院の必要性はなかった。
- ・罹患している方のご家族も、濃厚接触者となり、就業制限や登校が出来ないことや、感染した方も数名いたことから謝罪などを行う。
- ・8月30日に営業再開できる見通しが出来たので、利用者のご家族へ連絡し、利用が可能であるかと、事業所の除菌や対応策などを報告する。
- ・8月30日の営業再開に向けて、複数の感染が生じた事から、職員が就業にむけて多大なストレスを抱えていることから、沖縄県新型コロナウイルス感染症に関するこころのケア（公認心理士協会）へ連絡し、8月22日に事業所全体での感染症における勉強会や心理士の方が職員に対し、個別でカウンセリングを一人、20～40分行った。公認心理士の話によると、職員のコロナウイルス感染症に罹患した方の精神的な負担はもちろんのことそれを取り巻く環境、家族等の感染の不安が非常に高い。また、事業所の運営を心配する方や、利用者の身体、精神的なことも心配される方も多くいた。罹患していない方もいつ自分が感染するのか？等の不安が大きく、事業所としての感染予防策を徹底した方がいいとのこと。今後も職員にむけて公認心理士の方と連携を図り、カウンセリングや勉強会を開く予定である。

4 全体総括

今回、複数の感染者が生じた事業所として言えることは、感染した方の少しの体調の変化や、自宅待機を命ずることが出来れば、結果が変わっていたかもしれない。事業所として、ご家族の介護力や利用者の病歴、環境などを確認し、受け入れを慎重に行っていれば軽減できていた可能性もある。第一発症者が発見された時点で直ぐに事業所を休止していたにもかかわらず、多くの方が発症したことは、利用者の席が円卓であり、交流しやすい環境であることや、利用者のマスクを装着が充分でないこと、送迎車では密の状態であることが集団発生の条件が認められる。職員はもちろんマスクを着用し業務を行うが、職員は、利用者、職員がコロナウイルス感染症に罹ることなど想像もしていなかった状況であった。今後は、利用者の回復を祈ると共に、事業所として信頼を取り戻すためにも、今まで以上の感染症予防の徹底を図りながらサービスの質を向上に務めていく。当事業所が発生した事例を徹底検証し、他の事業所への情報提供を行い、地域で感染予防ができるようにする。

感染症内科の先生方や介護事業所、沖縄県コロナウイルス感染症対策本部と今後も連携し、利用者、職員の健康と安全を一番に感染症予防対策を行う。

(デイ)

1 基本情報

- (1)施設所在地：中南部
- (2)事業所種別：通所介護事業所(デイサービス)
- (3)利用上限：40名程度
- (4)感染者数：利用者1名

2 経緯

(1)初回感染確認まで

- ・8月11日 A様、通常通り利用され帰宅される。体調不良なしその夜、発熱、救急搬送となり入院となる。
- ・8月12日 A様PCR検査行ったと奥様より連絡あり。
- ・8月13日 A様PCR検査陽性と報告あり。

(2)初回感染確認後

・8月13日

保健所、市町村、県高齢者福祉介護課(県所管課)、県コロナ対策本部支援班(県本部)へコロナウィルス感染症の罹患者の発生を伝える。

保健所より濃厚接触者の割り出しのため情報をファックスしてくださいと連絡を受ける。施設としての濃厚接触者候補は利用者9名、ほか職員12名(身体介護にて濃厚接触者))

管理者、施設長、他3名にて保健所からの指示の下、デイ利用者の利用を8月14日～22日までの9日間自粛とすることを決定。利用者、ご家族様、各ケアマネへ連絡し了解してもらう。

・8月14日

利用予定者37名の体調確認等(体調管理と検温状況確認)の為、電話にて聞き取りを行うとともに営業時の注意事項を再度確認する。

保健所から濃厚接触者候補者を記入するリストのファックス未着。

・8月15日

利用予定者27名へ体調確認等の為電話にて聞き取りを行う。

保健所へ濃厚接触者候補リストが届いていないことを連絡。14日にファックスしたこと。PCR検査は、介護施設のため、濃厚接触者全員対象であるとの事。

A様 奥様に連絡、A様の状態確認を行う。

・8月17日

利用予定者37名へ体調確認等の為電話にて聞き取りを行う。

保健所へ利用者及び職員濃厚接触者候補の必要事項を記入。リスト送信する。

県本部より電話。その後特に、体調不良者、特変者は出でないか、これからも様子観察継続して下さいとの事。

A様家族へ体調確認の連絡。

市町村より状況確認の電話あり、現在に至る経緯を説明する。

保健所へ送信確認の為電話。本施設より届いた書類はこれから検査や感染管理指導を実施して頂きそうな病院へ送信するのでPCR検査、施設指導等の日程調整が後日になるとの事。

・8月18日

病院より濃厚接触者PCR検査の連絡あり。

県本部へPCR検査日程・体調不良職員の件連絡。

国立感染症研究所より職員2名訪問。

・8月19日

利用予定者38名へ体調確認等の為電話にて聞き取り行う。

体調不良職員へ体調確認の連絡、眩暈、頭痛、倦怠感、吐き気の訴えあり。前日、PCR検査を行い、早ければ、今日にでも結果出るとの事。

PCR検査実施の為、職員6名で利用者5名を迎える病院へ向かう。

県本部より連絡あり。経緯報告する。職員1名体調不良にて、PCR検査施行の件を伝える。

・8月20日

利用予定者34名へ体調確認等の為電話にて聞き取り行う。

検査の為、職員5名 利用者4名を迎える病院へ向かう(2日目)。

体調不良職員より連絡あり。PCR検査の結果陰性と報告あり。

県本部より連絡あり。経過報告し体調不良職員の検査結果陰性と報告する。

・8月21日

利用予定者38名へ体調確認等の為電話にて聞き取り行う。

ご家族様より営業再開について問い合わせあり濃厚接触者のPCR検査わかり次第連絡すると伝える。

8月19日PCR検査対象者(利用者5名・職員6名)各自に病院より連絡あり全員陰性判明。

県所管課より連絡あり。上記を報告する。

・8月22日

利用予定者26名へ体調確認等の為電話にて聞き取り行う。

病院より20日検査者(利用者4名・職員5名)は全員陰性判明。これを受けて24日からの再稼働決定。感染症対策方法の再確認、飛沫感染予防シールド設置。

8月24日よりデイサービス通常営業する事を関係者様へ連絡する。

- ・ 8月 24日 施設全面再稼働。

3 施設感染にかかる状況

(1)初回発生確認まで

- ・ 8月 10日 月曜日

A様、祝日にて併用のデイ休みの為本施設利用となる

※通常利用日 火・木・土曜日 月・水・金曜日 他事業者利用

- ・ 8月 11日 火曜日

通常通り利用され帰宅される。体調不良なしその夜、発熱、救急搬送となり入院となる。

- ・ 8月 12日 水曜日

A様 PCR 検査行ったと奥様より連絡あり。

- ・ 8月 13日 木曜日

午後 A様 PCR 検査 陽性と報告あり。

14:00 保健所へ連絡、折り返し保健所より指示あるとの事、指示を待つ間に市町村、県所管課、県本部へコロナウィルス感染症の罹患者の発生を伝える。濃厚接触者がわかり次第、連絡する報告する。

16:00 保健所より連絡あり。濃厚接触者の割り出しを行うため、記入様式をファックスするので、記入・ファックスしてくださいと連絡を受ける。

濃厚接触者候補 利用者 9名

氏名 接触日 接触場所

①B様 8月 10日(月) 送迎同乗者

②C様 8月 10日(月) 送迎同乗者

③D様 8月 11日(火) 送迎同乗者

④E様 8月 11日(火) 送迎同乗者

⑤F様 8月 10日(月) 送迎同乗者

⑥G様 8月 10日(月) 送迎同乗者

⑦H様 8月 10日(月) 送迎同乗者

⑧I様 8月 11日(火) 送迎同乗者

⑨J様 8月 10日(月) 送迎同乗者

ほか職員 12名(身体介護にて濃厚接触者)

16:40 管理者、施設長、他 3名にて保健所からの指示の下、デイ利用者の利用を8月14日(金)より8月22日(土)までの9日間を営業自粛とする。

17:00 利用者、ご家族様、各ケアマネへ連絡し、感染症の発症にて14日(金)より22日(土)までの間、営業を自粛することを伝え、その間自宅待機

となることを了承してもらう。

・8月14日 金曜日

利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取りを行う。37名。その後、保健所よりのファックスは未着。

営業時の注意事項を再度確認する。

①入室時、検温する。

③連絡は携帯電話を使用する。(車、詰め所の鍵は、デイにて保管する。)

④送迎時車中の窓は複数の窓を約5センチほど常に開け換気をする。

⑤送迎終了後は消毒を忘れない。

※消毒、室内換気は従来の方法で行う。

マニュアル作成も同時進行し作成する。

また、保健所への対応の質問をまとめ電話の際確認できるようにする。

・8月15日 土曜日

9:30 利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取りを行う。27名

10:45 県所管課より電話あり。保健所より濃厚接触者候補者リストが届いているか確認の電話あり届いていない事を伝えると、保健所へ催促の連絡するようとの事。その際、濃厚接触者 利用者 9名 職員 12名と報告する。

11:45 保健所へリストが届いていないことを伝える。

12:00 保健所よりリストを14日にファックスしたと連絡あり。PCR検査、介護施設のため、濃厚接触者全員対象であるとの事。

15:00 A様 奥様に連絡、A様の状態確認を行う。面会はできないが特に病院からの連絡はないので大丈夫でしょうと、自力呼吸も可能との事。奥様も、8月15日 PCR検査行ったとの事。保健所から記入用Fax届く。

・8月16日 日曜日

14:15 県本部より検査日程決まり次第報告下さいとの事。

・8月17日 月曜日

8:30 濃厚接触者 F様 息子より保健所より連絡はないがどうなってますか。また、濃厚接触者家族へのPCR検査はありますか等質問を頂く。現在、保健所へ濃厚接触者のリストを送り、こちらも、連絡をまつてある事を伝える。息子より勤務先の病院にて検査をしますかと上司より話があり、勤務先にて検査受けてよいか尋ねられる。1日でも早く検査をし安心するのであれば、勤務先にて検査受けた方が良いと話す。

9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取りを行う。37名。

- 10:00 保健所へ利用者及び職員濃厚接触者の必要事項を記入。確認後、濃厚接触者リスト送信する。
- 14:00 県本部より電話。その後特に、体調不良者、特変者は出でないか、これからも様子観察継続して下さいとの事。
- 14:05 A 様家族へ連絡、面会はできないか、熱も下がり体調も回復に向かい来週には退院出来るでしょうと病院側より連絡あったとの事。
- 16:35 市町村よりコロナウィルス感染症経路状況確認の電話あり、発熱、救急搬送搬送状況より現在に至るまで説明する。
- 16:50 保健所へ送信確認の為電話。本施設より届いた書類はまだ保健所へあり、これから検査や感染管理指導を実施して頂きそうな病院へ送信するので PCR 検査、施設指導等の日程調整が後日になるとの事。

・ 8月 18 日 火曜日

- 9:00 病院より連絡あり。濃厚接触者の PCR 検査について次のとおり実施すること。

日 時 8月 19 日(水) 8月 20 日(木) 両日
場 所 病院 屋外診察所
時 間 15:00
方 法 ドライブスルー方式病院駐車場にて待機。準備出来次第病院側より電話連絡あり
準 備 マスク 各個人の保険証 飲み物 筆記用具
注意事項①車中にて待つため、熱中症に注意する。
②車中換気を忘れない。
③検査料は無料であるが、病院受診料が発生する

- 9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取り行う。38名。

- 9:50 濃厚接触者、ご家族様、利用者様へ検査日程の説明を行い、注意事項を説明する。

< 8月 19 日の検査受検者 利用者 5名 職員 6名 >

< 8月 20 日の検査受検者 利用者 4名 職員 6名 >

- 11:00 職員 1名、今朝より、熱はないが、倦怠感があると、連絡があり自身にて、保健所と連絡を取り検査受けるように指示する。その際、本施設での濃厚接触者ということを伝えてもらう。

- 14:00 県本部より電話。PCR 検査日程と体調不良職員の件も報告する。

- 16:00 国立感染症研究所職員 2名訪問。発症時の他施設利用者、連絡はどうしているかと質問あり。その都度、ケアマネ、他事業所へ連絡を入れている旨を伝える。手指消毒、換気に気をつけて下さい。また、カラオケは控えるよう指示あり。これからも、感染予防に努めてくださいとの事。

・ 8月 19 日 水曜日

- 9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取り行う。38名。
- 10:30 体調不良職員へ体調確認の連絡、眩暈、頭痛、倦怠感、吐き気の訴えあり。前日、PCR 検査を行い、早ければ、今日にでも結果出るとの事。
- 14:00 PCR 検査結果の為職員 6 名で利用者 5 名を迎える中部病院へ向かう。利用者様送迎内訳 B 様 F 様 G 様 H 様 I 様
- 15:30 県本部より連絡あり。経緯報告する。職員 1 名体調不良にて PCR 検査施行の件を伝える。ケアマネより A 様奥さん PCR 検査結果陰性との事。
- 15:35 PCR 検査終了し利用者送迎後、対応職員施設へ戻り

・ 8 月 20 日 木曜日

- 9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取り行う。34名。
- 14:00 PCR 検査の為職員 5 名利用者様 4 名を迎える病院へ向かう。利用者様送迎内訳 K 様 E 様 C 様 D 様 ※入浴パート職 1 名現地集合。
- 14:05 A 様ケアマネより本人、痰がらみ強く、誤嚥性肺炎の可能性あり、来週の退院はありませんと奥様より連絡あり。
- 14:10 体調不良職員より連絡あり。PCR 検査の結果 隆性と報告あり。
- 15:15 県本部より連絡あり。経過報告し体調不良職員の検査結果陰性と報告する。
- 15:30 PCR 検査終了し利用者送迎後、対応職員施設へ戻り

・ 8 月 21 日 金曜日

- 9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取り行う。38名。
- 10:30 ご家族様より営業再開について問い合わせあり濃厚接触者の PCR 検査わかり次第連絡すると伝える。
- 11:15 県本部より電話あり。19 日、20 日両日検査施行者の結果はどうないましたかと問い合わせあり。まだ、検査結果がでていないことを伝える。後日連絡しますとの事。
- 14:15 8 月 19 日 PCR 検査施行者 利用者 5 名 職員 6 名 各自に病院より連絡あり全員陰性判明。
- 15:00 県所管課より連絡あり。体調不良にて PCR 検査受けた職員はどうなりましたとの問い合わせ。8 月 19 日検査受けた方(利用者 5 名 職員 6 名)陰性であるとの報告する。また、20 日検査結果わかり次第連絡くださいとの事。

・ 8 月 22 日 土曜日

- 9:30 本日、利用予定者全員へ体調確認と検温状況確認の為、電話にて聞き取り行う。26名。

14:30 病院より 20 日検査施行者は全員陰性でしたと報告あり感染症対策方法の再確認、飛沫感染予防シールドの設置をする。

15:00 8月 24 日(月)よりデイサービス通常営業する旨を利用者様全員へ連絡する。

・ 8月 24 日 月曜日 施設全面再稼働。

4 まとめ(今回の発生状況及び対応)

8月 11 日利用者様発熱しその後 13 日に陽性判明。濃厚接触者 利用者 9名(同送迎車同乗)職員 12名(身体介護)となり営業自粛となつた。

日頃から施設内感染症対策委員会指示の通り検温、消毒、換気に気をつけ対策を行つていたが、1名発症と共に、職員の大半が、濃厚接触者となつた。

保健所より濃厚接触者の定義を知っていたら、濃厚接触者数が減り、もう少し細やかな配慮できたのではないか。

また、他事業所を併用利用している利用者がおり今回、相手の情報が入らなかつた。今後、どう情報を交換できる体制の構築を図るか課題である。

デイ利用者様、ご家族様のご協力の下、感染者が1人で終わったのは、幸いであった。

また、利用日に毎回、体調確認の連絡や、身の回りの困ったことはないか、聞き取りも常に行い利用者の情報収集も欠かさなかつた。

※(本施設の認識)

濃厚接触者とは1メートル内でマスク使用せず 15 分接触したなら濃厚接触
(双方マスク着用なら大丈夫)

同テーブルでの食事摂取者や介助者も濃厚接触者に含まれる。

(感染者がマスクしていないため濃厚接触にあたる)

送迎に関しては、双方マスクをしていても 15 分以上同送迎車に乗した場合、濃厚接触とみなす。(窓を開けていれば、含まない)

入浴は、本人がマスクを使用していないため、濃厚接触

濃厚接触者は最後に接触してから 14 日自宅待機となる。

PCR 検査に関しては 65 歳以上検査の案内は出すが、職員に関しては、基礎疾患がなければ、検査は行わないとの事。今回は福祉施設との事で濃厚接触職員も検査施行できた。

別紙

職員共通認識事項

出勤時

- ・出勤前に自宅にて検温と体調確認を行い、微熱や体調不良があれば電話連絡をする。
- ・出勤時はマスクを着用し出勤する。
- ・静脈認証は外から回り、特養側の通路を通らない。
- ・出勤したら検温しチェックリストに記録する。微熱があれば、看護師に報告する。
- ・勤務中は消毒液を必ず持つ。
- ・室内は換気を行い、窓や入り口のドアを開放する。
- ・申し送り中は、マスクを装着しソーシャルディスタンスを保つ。

送迎時

- ・送迎中は窓を5cm開け換気をしながら走行する。
- ・利用者は必ずマスクを装着し検温後に乗車する。
- ・送迎後使用した車の消毒をする。担当：○○(各車の運転手)

到着後

- ・入室前にアルコールにて手指の消毒を④実施する。
- ・配席表に沿って席へ誘導する。体調不良時は、席へ案内する前に看護師報告する。
- ・送迎担当職員は、検温表に体温を記入する。
- ・微熱のある利用者は、手工芸側の席に誘導し他の利用者と隔離する。
- ・個室トイレ介助の際は、密室になるため15分以上は滞在しない。

朝体操

- ・朝の体操開始時利用者のマスク着用を声掛けし徹底する。
- ・体操開始時は窓を閉め、体操終了後に換気を行う。
- ・使用済のシャフト・フープ・セラバンドはかごに入れてプリュテックで拭いてから容器に戻す。担当：○○(各車の運転手)

入浴

- ・入浴誘導は利用者の体調確認が終わってから誘導を行う。
- ・浴室は窓を開け換気を行い、介助者はマスクを必ず着用し入浴介助を行う。フェイスシールドの使用は熱中症の危険性を考慮し個人の判断に任せる。
- ・更衣室の密を避けるため浴室は3ヶ所を使用する。(1度に2人まで)

食事・口腔ケア

- ・食事前はアルコールを使用し利用者の手指消毒を行う。
- ・食事介助・口腔ケアの知己は、マスクとフェイスシールドを着用し食事介助を行う。
- ・食事介助はストレッチャーと評価の担当が実施いし、おやつまで一貫して実施する。

別紙1

- ・評価はトイレ誘導があるため、食事が早く終わる利用者の介助に入る。
- ・ストレッチャー担当は後半に休憩に入る。
- ・食事介助が3人いる場合は、フロアの看護師が食事介助に入るが、昼薬の配薬があるため早く食事が終わる利用者の介助に入る。
- ・入浴パートの3人はストレッチャー担当には付けずに、口腔ケアの介助に回る。
- ・口腔ケアの際は正面に立たずに立ち位置を考えて介助を行う。
- ・口腔ケアの際待機者は2人までとし、間隔をあけて待機する。
- ・口腔ケア終了後は汚物を片づけてから次の利用者を案内する。
- ・使用済歯ブラシは1人ずつコップにミルトンを入れ1時間以上浸けてから片付ける。担当：朝体
- ・ミルトン液は当日の朝に用意する。(24Hしか効果がないため)

午後の休憩時間

- ・休憩時間帯に臨検を実施する。
- ・マッサージ機使用中もマスクは必ず着用するよう説明する。
- ・マッサージ機、ウォーターベッドはその都度消毒を行う。
- ・職員の休憩は密を避け、他部署との接触にも気をつける。

午後

- ・午後のレクは密を避け動作が少なく、道具を使用しない物を行う。カラオケはNG
- ・おやつ前はアルコールにて利用者の手指消毒を実施する。

送迎後

- ・送迎終了後は全員でハイター消毒を実施する。
- 消毒実施場所：机、いす、手摺、シールドとスタンド、その他手が触れる場所全て

1 基本情報

- (1)事業種別：通所介護事業所
- (2)利用上限：35名
- (3)感染者数：利用者8名・職員1名

2 経緯(概要)

(1)初回発生確認まで

- ・8月12日

利用者Aさん発熱・風邪症状にて病院受診。PCR検査実施。

- ・8月13日

利用者Aさん担当ケアマネより検査の結果陽性と報告あり(1人目)。

(2)初回発生以降

- ・同 日(8月13日)

Bさん自宅にて発熱。病院受診PCR検査実施し陽性(2人目)。

コロナ陽性ご利用者がでたこと、感染症拡大防止のため、8/14(金)・8/15(土)は、デイサービスが休業になることをご利用者ご家族へ連絡。保健所と病院に指示を仰ぐ。

- ・8月14日

陽性ご利用者(二人)に対してのテーブル同席ご利用者、送迎車同乗のご利用者のリストをデイサービス職員へ指示し作成。PCR検査を利用者等複数名に実施。

次亜塩素酸を使用し送迎車とデイホール内の清拭と消毒作業を実施。

- ・8月15日

責任者の判断で、来週休業の決断。来週も休業と決定する。

14日検査した15名のPCR検査結果は全員陰性。

追加してご利用者(Cさん・Dさん・Eさん・Fさん等)を中心にPCR検査実施。

- ・8月16日

ご利用者FさんPCR検査結果陰性。

- ・8月17日

ご利用者Fさん発熱。

- ・8月18日

ご利用者DさんPCR検査結果陽性(4人目)。

ご利用者Eさん(5人目)陽性。

ご利用者Fさん病院外来受診し抗原検査実施し陽性(6人目)。

ご利用者Gさん発熱外来のPCR検査待機中に呼吸苦、発熱あり、抗原検査実施し陽性(7人目)となり現在、ERにて入院待機と連絡を受ける。

居宅職員がコロナ陽性(8人目)と報告受ける。関係職員の健康観察実施。

- ・8月19日

関係事業所向けにコロナ感染症発生についての公文書作成しFAXで送信。

責任者が8月中の休業を判断。

- ・9月1日

施設完全再稼働。

3 施設の状況（詳細）

(1) 感染時状況

Aさん

・ 8月13日(木)

15:30 担当ケアマネジャーより 8/12(水)に発熱・風邪症状にて病院受診され PCR 検査実施。新型コロナウィルス陽性と報告受ける。

Bさん

・ 8月13日(木)

自宅にて発熱あり、8/13(木)病院発熱外来へ案内され PCR 検査実施。コロナウィルス感染症陽性と病院より管理者へ報告あり。

15:40 デイ介護主任が関係機関へ報告。

16:00 保健所へ報告。

17:30 感染症拡大防止のため、8/14(金)・8/15(土)は、デイサービスが休業になることをデイ管理者等がご利用者ご家族へデイからコロナ陽性ご利用者がでたこと状況報告を電話にて連絡。

保健所等に指示を仰ぐ。

・ 8月14日(金)

9:00 コロナ陽性ご利用者(二人)に対してのテーブル同席ご利用者、送迎車同乗の、ご利用者のリストをデイサービス職員へ指示し作成。

9:00 病院職員が来所され指示を受け、接触者、対象者(リスト)を基にご利用者へ PCR 検査を HP 発熱外来で検査するよう 25 名対象に家族にお願いの電話。接触者リストを関係機関と保健所へ FAX にて送信。

9:30 デイサービス職員にて次亜塩素酸を使用し送迎車とデイホール内の清拭と消毒作業を行った。

10:30 ご利用者家族から、病院へ連絡したが無症状の PCR 検査は、実施対象外といわれたと苦情・相談の電話を受ける。病院へ伝えて、病院へデイサービスご利用者はリストを基に PCR 検査行うようにと指示してもらう。

8/14(金)8/15(土)に PCR 検査 25 名実施予定。

14:30 デイサービス職員は全員接触者として 15 名 PCR 検査実施。8/17(月)に検査結果出る予定と報告あり。

・ 8月15日(土)

11:00 関係機関へ状況を報告し来週の営業確認、責任者の判断で、来週休業の決断。関係機関へ確認され来週も休業と決定する。

各居宅事業所ケアマネにコロナ陽性ご利用者が出た事と、感染拡大防止策について電話にて報告。ご利用者とご家族へ報告と症状の観察、発熱や風邪症状がみられた時には、HP 発熱外来を受診することと来週休業になることを連絡。

14:45 関係機関から電話にて報告あり、15 名のデイサービス職員の PCR 検査結果は陰性。ご利用者 3 名陽性との事。新たに陽性のご利用者に対しての接触者リスト、座席配置図作成を依頼。

- 17:00 関係機関からご利用者新たに1名陽性と報告うける。
- 17:30 関係機関へ本日新たにデイご利用者4名コロナ陽性が出た事などデイサービスの現状報告。
- 17:30 関係機関へ接触者リストを作成しながら、ほぼ全てが該当者になるため、ご利用者全員のPCR検査をお願いし承諾される。ご利用者のご家族へ8/17(月)に病院へデイサービス利用者と伝えてPCR検査を受けるよう連絡。同日ご利用者19名PCR検査予定。対象者リストをデイ職員で作成し病院へFAX送信。

・ 8月16(日)

- 8:30 接触者リストと座席配置図を4名出勤し資料作成。
- 9:30 保健所から電話連絡あり。コロナ陽性ご利用者、Cさんのケアマネが濃厚接触者に該当しないかと連絡受ける。本人へ電話連絡した。
- 14:30 Dさんご家族から連絡あり、8/15(土)PCR検査受け、陽性だったこと報告。症状は微熱と咳、倦怠感のうつたえがあるとのこと。※県コロナ対策本部(県本部)より、独居で認知症の為、入院できる病院などをさがしていると連絡があったことも報告受ける。
- 15:00 Cさん(身内)から連絡あり、県本部から、ホテルや病院など入院施設確保は難しいとの事。8/18(火)に保健所の看護師が1週間分の水と食料などを準備して訪問する予定。本人の自覚があまりなく、外出して、飲酒などしないか心配と相談うける。ケアマネへ相談受けたことを電話にて連絡。

・ 8月17日(月)

- 9:00 市町村へ8/13(木)にコロナ感染症陽性のご利用者2名発生した事と8/15(土)に4名コロナ感染陽性のご利用者が発生したこと、8/14(金)からデイサービスを休業していること、本日PCR検査19名実施予定しているとの報告。※保健所と県本部へも書類などを提出しながら、随時・状況の報告していることを伝えた。※市町村へは特に提出する書類はないとの返答。
- 12:00 関係機関から本日PCR検査受けの方3名は陰性だったと報告を受ける。
- 14:00 市町村から連絡あり、再度状況報告行った。※保健所等の立ち入り調査が入ることがあれば、担当課へ再度報告をお願いしますとの事。
- 14:30 保健所から連絡あり。ご利用者、関係機関へPCR検査受ける際にご家族の移動手段手続きがない為、車を持っていないので施設で対応相談を受けるも、対応できないことを伝える。その後、家族へ無症状であればタクシーへお願いしてみてはと伝えた。
- 14:45 県本部から連絡あり。現在のデイサービスの状況を報告。保健所からの指導などがあったかの確認もあり。
- 17:30 関係機関へ報告内容

・ 8月18日(火)

- 8:30 ご利用者で併用されている他事業へコロナ陽性ご利用者がいる状況を伝える連

- 絡と8月いっぱい、デイサービス休業になることの電話を指示。
- 10:00 関係機関から連絡あり。バス同乗者のリストを再度提出の依頼を受け、提出。ご利用者、Eさん陽性。8/17(月)妻も陽性。8/15(土)～咳などの症状がみられたと報告を受ける。
- 11:00 関係機関から連絡あり。ご利用者の(妻)コロナ陽性・Eさんの状態を確認依頼。本人へ電話にて症状確認、昨日体温38.0度で今日は37.3度 咳、喉の痛み、胸の痛みがある本人も入院希望。再度、感染対策員へ報告。
- 12:30 感染対策員から連絡あり。ご利用者Fさん8/14(金)PCR検査陰性、無症状。8/17(月)発熱あり、発熱外来受診され、抗原検査実施、コロナ陽性。ERにて治療中との事。※高齢者は症状が遅くから出てくる可能性も高い為、症状の観察を強化するようご利用者のご家族へ伝えてほしいとの事。
- 12:30 関係機関から連絡あり。ご利用者(同居)の娘さんが発熱、風邪症状あり。PCR検査実施、コロナ陽性、居宅職員がコロナ陽性と報告受ける。居宅職員の観察するようにと連絡受ける。
- 14:00 関係機関から連絡あり。居宅職員の担当・ご利用者のリストを提出依頼受け、別の居宅職員へお願いし提出済み。8/10(月)～8/13(金)までの接触者リスト提出依頼。テーブル座席表・送迎車同乗の相関図作成、提出済み。
- 16:00 関係機関から報告あり。ご利用者Gさん、発熱外来のPCR検査待機中に呼吸苦、発熱あり、抗原検査にてコロナ陽性。現在、ERにて入院待機中と連絡を受ける。
- 15:05 ケアマネへ状況を報告。
- 16:10 利用が重複している、別事業所相談員へ報告。
- 16:40 市町村へ現在のデイサービス、コロナ感染症の状況報告。

・ 8月19日(水)

- 10:00 保健所の担当へ感染症の指導を仰ぎたいと伝えた。8/20(木)14:00 県本部が聞き取り可能と返答受ける。関係事業所向けにコロナ感染症発生についての公文書作成しFAXで送信。
責任者へホームページにデイサービスでのコロナ感染症発生について載せた方がいいか確認し載せたほうがいいと返答受ける。※責任者が8月いっぱいは休業と判断。

・ 9月1日事業所全面再稼働

(2)検査概況

8月13日(木)Aさん・Bさん

8月15日(土)Gさん・Cさん・Dさん・Eさん

8月18日(火)Fさん 8/15(土)PCR検査(陰性)。18日抗原検査にて陽性。Hさん抗原検査にて陽性。

デイサービスご利用者 コロナ感染症合計 8名

居宅職員 コロナ感染症合計 1名

ご利用者及びご家族の皆様へ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の協力依頼！！

いつも、
を利用して頂きありがとうございます。

現在、近隣の介護施設等で新型コロナウイルス感染症患者が増加傾向にあります。

ご利用者及びご家族様も十分に体調管理に気を付けて下さい。

下記の症状がある場合には当デイサービスを1週間程お休みして頂くことになりますので、ご理解とご協力をお願
い致します。

- 1 朝迎え時の検温にて37.5℃等発熱がある場合。
- 2 朝迎え時に、発熱の有無等にかかわらず風邪症状【咳・鼻水・のどの痛み・倦怠感】がある場合。
- 3 利用者の家族及び同居している方に風邪症状の方がいる場合。(施設内集団発生防止のためにお休みいただく場合もあります。)

※当デイサービス利用中に発熱や風邪症状【咳、鼻水】等があった場合、ご家族へ連絡する場合があります。

- 1 -

ご利用者・ご家族へ お願い！！

コロナ対策

テーブル・イス（日中）

円卓 一卓 4~5名席。各テーブルに消毒液設置。
テーブル・椅子はクリネルで毎回拭き、一か所使い捨て。
テーブルに抗菌パーテーションを設置し飛沫を防ぐ
利用者職員は必ずマスク着用（鼻がしっかり隠れるようにする。）
入室時全員アルコール消毒。可能な人は石鹼使用の手洗い。
流水・石鹼手洗いが基本。
※アルコール手指消毒
(入室時・食事前・おやつ前)

重要
クリネル・次亜塩素酸水使用後
は乾いたペーパーでふき取る。
(乾燥が基本。)

※換気は10分間（常時窓は少し開ける）
【9:30 11:30 13:30 15:30】場所：畳間・玄関・ホール・リハ室（トイレ前・畳前）・事務所

送迎時

- ①送迎は二人体制
- ②運転席・助手席・後部座席の半分窓を開ける（常時クーラーの外気スイッチ入れる。）
- ③停車中はドアを開け換気に心がける。
- ④利用者を自宅から迎える際、毎回確実に職員自ら手指消毒行う。（媒介者にならないように）
- ⑤利用者を迎える際検温・本人と家族の体調確認（体調不良の場合利用は×※体温37.5度以上は不参加。）
- ⑥座席は一人ずつ座る。隣同士座らせない。（添乗員も離れて座る）
- ⑦送迎終了後は手すり、座席等クリネル消毒する。

＜＜具体的な体調確認＞＞
①のどの痛みはないですか？
②咳はないですか？
③食欲はありますか？
④水分は取れていますか？
⑤だるさはないですか？

入浴（リスクが最も高い）

- ①利用者一人に対し職員一人で対応。職員二人体制。
- ②人数制限4~9人程度 流れ作業にしない
- ③職員はゴーグル・サージカルマスク着用
- ④利用者同士2m間隔にする。むかえ合わせにしない。マスクを外すことになるので会話は控える。
- 利用者入浴後、脱衣所（手すりや椅子等）はクリネルで消毒。浴室（手すり・イス等）洗剤、流水で洗い流す。

訓練

- ①カラオケ・口腔体操は飛沫感染を防ぐためしばらくNG
- ②リハビリの際使用したマシン・平行棒・階段・ブーリー等の器具は必ず毎回クリネルで消毒する。
- ③レクは半円で行う場合、利用者同士2m間隔を開ける。（or 列で並ぶのも良い。ただし一定方向）
- 可能な限り間隔を設ける。

排泄

- ①利用者、一度の排泄に対して毎回クリネルで消毒。
- ②ドアノブ・てすり・便座分けて消毒する。

離床・臥床

- ①離床後ベッド柵を毎回クリネルで消毒。
- ②本人にタオルを持ってきてもらいそれを敷いて対応する。
- ③枕は、タオルを巻いて対応。その都度交換。

口腔ケア

- ①利用者同士2mの間隔で行う。
- ②利用者、一度のケアに対して使ったカ所を、毎回クリネルで消毒。
- ③職員は、エプロンを使用する。
- ④ケア後の手袋は毎回使い捨てる。

※クリネルはその用途に合ったサイズにカットし、専用の収納パックに入れる。
※その際一日使い切りとする。（衛生面から）

※詰め替え容器を再度使用する際は、乾燥させ使用する。使いまわしは乾燥が基本。

関係事業所 各位

令和2年 月 日

新型コロナウイルス感染症の発生について

令和2年 月 日、
感染が確認されました。

詳細につきましては、
PCR検査が陽性と判定され、直ちに管轄保健所に報告を行いました。

利用者様から新型コロナウイルスの

利用者に 日 発熱症状が出現、 日に病院受診

当該利用者の生活状況やデイサービス利用及び送迎時の状況を辿り、

保健所と協議した上で、接触者となる対象者のリストアップを行い
の休業を決定いたしました。

現時点では、 月いっぱい当デイサービスセンターを休業することを予定しています。

今後、感染対策の強化、並びに職員の標準予防の徹底につきましては、

の指導の下、対応策を講じて参りますので、皆様のご理解をいただけますよう
お願い申し上げます。

お問い合わせ先

管理者

利用者 濃厚接触者リスト

PCR検査予定者リスト

	氏名	生年月日	住所	連絡先	基礎疾患
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

送迎車両別同乗者相関図

大型

運転	添乗
	出発時間 (:)

特記事項

令和 年 月 日 ()

①

順番	運転	添乗
	出発時間 (:)	

特記事項

②

順番	運転	添乗
	出発時間 (:)	

特記事項

順番	運転	添乗
	出発時間 (:)	

特記事項

③

順番	運転	添乗
	出発時間 (:)	

順番	運転	添乗
	出発時間 (:)	

特記事項

特記事項

休み

座席相關図



